

## 「悪霊が住み着く」

2015年08月07日

**ルカによる福音書 11章 24節～26節。**「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうすると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。」

主イエスは悪霊に取りつかれた人から悪霊を追い出し、正気の人として回復させる「神の国」のリアリティを現された。民衆は驚嘆し、歓喜して群がった。この状況はファリサイ派の人々には公衆の面前で自分たちの権威が否定されたようで、耐え難く苦々しく、嫉妬した。彼らは「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と中傷し、攻撃した。主イエスは、悪霊も内輪もめすれば立ち行かないことを知っている、私は神の指で悪霊を追い出している、「神の国」はあなた方の所に既に来ていると宣言された。主イエスは、人をいやす神の働きを悪霊の力と言い変え、宣教を妨害する彼らに怒りを覚えたのであろう。激しい言葉を投げかけている。

「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうすると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。」この言葉は、当時の宗教的事情を著している。悪霊が空中にうようよと飛び交い、気に入った人に取りつくと考えていたのである。悪霊は人から出て見たが、休む場所を見出せず、元の人の所に戻りたくなかった。戻ってみると、家は掃除して、住み心地がよさそうに見えた。そこで、自分より悪質な七つもの悪霊を連れて来て住み着いた。その人は以前より悪くなったという。ファリサイ派の人々は、自分たちは律法を厳格に守り、家を掃除し、整えていると自負していた。主イエスは、そのあなた方の家に悪質な悪霊が取りついていてと語った訳である。主イエスは齒に衣を着せぬ物言いをする方である。強力な権威を持つ彼らは主イエスを憎み、死へと追い込まないはずがない。

宗教家たちは嫉妬深いと言われることがある。そうかもしれない。私も能力、賜物をも持った牧師たちに嫉妬したことがしばしばあった。しかし、その人々を否定的に言ったことはない。尊敬し、倣いたいと願うばかりである。ただ、目立ちたがり、能力をひけらかす牧師には嫌悪を感じる。マーティン・ルーサー・キング牧師の研究者が勲章をもらおうと聞いて驚き、もらわないようにと電話した。差別に命を賭して闘ったキング牧師を学んでいる人が差別の元凶である天皇から勲章をもらうことは矛盾すると思ったからである。しかし、彼は宮中に行って受賞した。社会的に評価されることは喜ばしいことであるが、牧師には主イエスに従い、倣う者としての節度が必要ではないか。

ヨハネ福音書4章に、歴史的事実ではないが、下記のように記している。主イエスの宣教は大きな広がりを見せ、洗礼者ヨハネの活動を凌駕するようになった。ヨハネの弟子は心配して「みんながあの人（主イエス）の方に行っています」と進言した。ヨハネは「あの方は栄え、わたしは衰えねばならない」と、主イエスは人々から崇められ、私は人間であるから地に埋もれていく、これでいいのだと答えている。牧師は主イエスを伝道することに心を傾け、人と比較したり、人からの評価に気を使うことはない。